Public relations magazine
2016.12 No.748
てしかが

「いろいろな切手があるんだね」
11月16・17の両日に行われた、弟子屈小学校２年生による郵便局見学での１コマです。子どもたちは、金庫の中で厳重に管理されている切手に興味津々。さまざまな切手を手に取らせてもらい、歓声を上げていました。(関連記事23ページ)

主な内容

- 町長・町議会議員選挙……❷
- 12月は町税等完納強調月間です……❹
- 協力隊通信……❺
- ご利用ください 空き家バンク・人財バンク‥❺
- 暴風雪事故などに備えましょう……❻
- 介護保険説明会＆地区懇談会を開催しています‥❻

むかしむか史（314）

てしかが歴史写真館 188

池の湯林道沿いの木の根元に建つ鳥居

12月12日は山に入るべからず

今年から国民の祝日となった山の日（８月11日）が、アウトドアレジャーとしての意味合いが強いことに対して、林業関係者にとって大切な山の日は別にあります。

山には、一般に女神がいるとされます。１年に12人の子を産むといわれることから、12という数字にこだわることが多く、弟子屈町史には「12月12日が山の神の祭りの日」と記されています。山仕事はせず、１年の無事を感謝し、次なる１年の安全を願う祭事を行うのです。

「山へ行って刃物を使ってはいけない」「女性の手出しは許されず、ご馳走まで全て男手で賄うように」「山の神が山の木を数えて歩くから、山に入ると人も木の１本として数えられてしまい、帰ってこられなくなる」といった説が聞かれます。

言い伝えには必ず教訓が含まれています。雪が降り始める時期で足元の危険が増えるから注意すること。男女がお互いの立場を尊重し、助け合って作業を進めること。森林資源への感謝を忘れないこと…。そういった根拠が垣間見られます。造材山の飯場では作業が終了するまで、近くの大木の根元に鳥居を立てかけることも行われました。

先住民族アイヌの人たちも、山にはカムイ(神)がいるとして、入山の際には理由を述べたあいさつをし、ささげものを欠かしませんでした。山の女神の父とされる大山祇神(オオヤマツミ)を祭り始めたのは、林業が産業の一つになってからの歴史ですが、自然の脅威を前にして、人々が神の存在を見たことに変わりはありません。

てしかが郷土研究会(斎藤)

てしかが 2016.12
毎月１回発行　発行／弟子屈町　編集／まちづくり政策課　☎４８２－２９１３　FAX４８２－２６９６
〒０８８－３２９２ 弟子屈町中央２丁目３番１号　URL http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/
R100 この広報紙には再生紙を使っています